

【生徒主体の取組】

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	秋田県	学校名	秋田市立高清水小学校
学校情報等	・設置者の別 (国立 ・ <u>公立</u> ・ 私立) ・児童生徒数 (332 人) ・学級数 (15 学級) ・教職員数 (33 人)		

取組の概要	<p>本校では、国の基本方針並びに秋田市いじめ防止基本方針を参考として、「高清水小学校いじめ防止基本方針」を策定している。以下、その概要及び主な取組について紹介する。</p> <p>基本方針の構成は、1. いじめの定義と基本的な考え方 2. いじめ未然防止のための取組 3. いじめの早期発見のための取組 4. いじめへの組織的対応 5. いじめ防止等の対策のための組織の設置 6. いじめ防止に向けた保護者や地域との連携 7. 年間計画 としている。</p> <p>いじめの未然防止のための基本的な考え方としては、子供一人一人の自己存在感や自己有用感を大きくむため、認め合い支え合う人間関係を築く体験活動等の充実を図るとともに、自分の進歩や成長を実感できる「分かる・できる授業」づくりを推進していくこと、思いやりの心と規範意識を醸成するため、家庭や地域と連携した道徳教育の充実を図ることが重要であると捉えている。</p> <p>早期発見のための取組として、これまでは全校児童対象の生活アンケート「丘の子ニコニコアンケート」を年2回(7月・12月)実施し、子供の悩みや友人関係の把握に努めるとともに、生活アンケートの結果を基にして学級担任と各児童が面談「丘の子トーク」を行い(年2回:7月・12月)、子供の悩みや不安等を聞き取り、悩み等の解消に努めてきている。更に、保護者との共通理解と連携を図るため、夏休み前半に担任と保護者の二者面談を行い、児童との面談からの情報等も共有している。</p> <p>その他、子供の気になる様子や出来事について、関係職員で日常的に情報交換するとともに、全職員で組織する「ぬくもり委員会」(毎月職員会議後に開催)において、必要に応じて情報の共有化を図っている。</p> <p>こうした中で、組織的対応として、事案を検知した段階で、「いじめ対策委員会」(校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・学年主任・養護教諭・スクールカウンセラー・学校評議員で構成)をベースとして当該担任を交えた支援チームをつくり、事実関係の確認、子供の心のケア、スクールカウンセラーや関係機関との連携、指導等に当たっていくこととしている。</p> <p>また、認め合い支え合う人間関係を築く体験活動では、「丘の子活動」(全校児童が異学年構成の12の班に分かれての活動)として、運動会の応援や丘の子まつりといった行事の企画運営を通して自主性をはぐくむとともに、異学年の交流と絆を深めていくよう取り組んできている。</p> <p>いじめの未然防止に関わる児童の活動として、昨年度は、児童会役員(プロジェクト委員会)が中心となり、いじめ防止を呼びかける自作の劇を上演するとともに、全校児童の意見をもとに「丘の子にここ5か条」を策定するなど、積極的に啓発活動を行った。</p>
効果・成果	<p>今年度、「丘の子ニコニコアンケート」及び「丘の子トーク」により把握した子供たちの様子等を話題とした、第1回いじめ対策委員会を7月17日に開催した。学校全体で情報共有するとともに、いじめの芽となる可能性がある事案等について、スクールカウンセラーや学校評議員から、夏休みに計画されている保護者面談における留意点等の貴重なご助言をいただくことができた。</p>

※ 取組として該当するものに○をつけてください(複数回答可)。

- (ア) 未然防止のための取組 (イ) 早期発見・早期対応の在り方 (ウ) 教育相談体制の充実
 (エ) 生徒指導体制 (オ) 校内研修 (カ) PDCA サイクル (キ) 児童生徒主体の取組
 (ク) ネットいじめ対策 (ケ) 保護者・地域社会の取組強化 (コ) その他 ()



「おかっぱ最大のピンチ！ 救出大作戦」 丘の子にこにこ5か条

～ 児童会役員（プロジェクト委員会）による取組 ～

1 「今を一生けん命」を引き継いで

本校の子どもたちは「丘の子」と呼ばれ毎年引き継がれてきた児童会テーマ「今を一生けん命」や児童会キャラクター「おかっぱ」のもと、自主的にさまざまな活動に取り組んでいる。

4年生以上の子供たちによる選挙で選ばれる児童会役員（プロジェクト委員会：児童会長、副会長、書記）をリーダーとして、それぞれの児童委員会が自主的に行う集会活動や、東日本大震災直後から被災地の小学校に本を贈る「東日本大震災復興支援思いやりプロジェクト」などの活動に取り組んできている。

昨年度は、児童会の目標を「高小から笑顔と思いやりの輪を広げよう」と設定した。子供たちは、学級や学年、委員会活動、丘の子活動などの場面で、目標を達成するための手立てを話し合い、工夫を凝らした取組を行ってきた。

2 児童会の目標に迫るための集会

後学期が始まって1ヶ月ほど経った頃、児童会役員の間で、クリスマスに向けて、「全校の仲間たちに心に残るプレゼントをしたい。」という声が上がった。新しい年を迎える前にみんなが笑顔になれる楽しい集会を開きたいという企画である。

クイズやゲームをしてみんなで楽しむのがいいのではないかと、個人やグループで特技を披露してもらおうのはどうだろうかなど、さまざまな提案がされた。最終的に楽しい劇を作って演じてみようということになった。

3 秋田市中学生「絆」宣言を受けて

昨年10月、「いじめをなくすために私たちができること」をテーマにした秋田市中学生サミットが開かれた。各校の実践発表やパネルディスカッションなどが行われ、前文と5項目からなる秋田市中学生「絆」宣言が採択され閉幕した。この宣言を目にした子供たちは、楽しいだけの劇というよりは、いじめの未然防止をテーマにした劇を作ってみようという考えに変わった。高小版「丘の子にこにこ5か条」を作ることによって、丘の子の笑顔につなげることができるのではないかと考えたのである。

4 丘の子劇団誕生

集会や劇を作る上で次のようなことをあげ、取組に入ることにした。

- ・集会は12月24日の昼休みに、暖房のある6年ホールで「クリスマス集会」として行う。
- ・集会の広報活動として児童会便りと校内放送を使って参加を呼びかける。ただし、自由参加とする。
- ・劇は児童会キャラクターの「おかっぱ」を主人公にする。
- ・劇のテーマは「いじめ」であるが、内容は当日まで伏せておく。

シナリオ作りを進めていくと課題も出てきた。児童会役員だけでは人員が足りないのである。そこで、音響は放送委員会に、登場人物の不足分は6年生有志にお願いすることにした。こうして「丘の子劇団」が誕生したのである。

休み時間に話し合いを重ね、ワープロソフトを使って完成したA4判10ページに及ぶシナ

リオは、全て子供たちの手によるものである。登場人物の詳しい人物設定や台詞、練習日程、道具類などが分かりやすく整理され記されていた。主なストーリーは次のようになっている。

- ・クラスでいじめられていた「おかっぱ」は徐々に元気がなくなり、周囲の子を心配させる。しかし、迷惑をかけたくないという思いから、誰にも相談しない。
- ・ある日いじめに我慢できなくなったクラスメイトが、勇気をもって声を出す。



集まった観客の前で劇を演じる丘の子劇団

5 クリスマス集会の実況

- (1) はじめのあいさつ
- (2) 劇
「おかっぱ最大のピンチ！ 救出大作戦」
- (3) 終わりのあいさつ

当日は全校からたくさんの子供たちが集まった。事前の広報活動もありこの日を楽しみにしていたのである。おかっぱが登場したときには歓声が上がって笑顔に包まれた。やがてこのおかっぱがいじめられていると知り、厳しい表情で劇を見つめるようになった。

劇の後段では、「丘の子にこにこ5か条」を発表し、全員で声を合わせて読み上げた。

- ・第1条 相手の気持ちをよく考えて行動する。
- ・第2条 悪口を言わない。
- ・第3条 自分がやられていやなことはしない。
- ・第4条 仲間はずれにしない。
- ・第5条 注意されたら素直にあやまる。

6 終わりに

シナリオを完成させるための話し合いや入力作業、劇の練習、道具の準備など、全て子供たちの手による自主的な活動であった。集会や劇の趣旨に賛同し、児童会役員以外に多くの子供たちが協力してくれた意義も大きい。

「丘の子にこにこ5か条」は、今年度全校児童が必ず登下校時に目にする児童玄関ホールに掲示され、子供たちにいじめ防止を訴えている。



冬休み前集会でも「丘の子にこにこ5か条」を発表

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	群馬県	学校名	高崎市立塚沢小学校
学校情報等	・設置者の別 (国立 ・ <u>公立</u> ・ 私立) ・児童生徒数 (572 人) ・学級数 (22 学級) ・教職員数 (49 人)		

取組の概要	<p>1 「塚沢小学校いじめ防止基本方針」に基づく教職員の活動</p> <p>(1) 校長：朝礼での「いじめ根絶宣言」 学校だよりでの「いじめ防止の取組」の連載</p> <p>(2) 生徒指導部：いじめ発見のアンケートの実施 いじめ解消の確認</p> <p>(3) 各部会：担当委員会における児童の活動への指導・支援</p> <p>(4) 外部講師によるいじめ防止のための研修の実施</p> <p>(5) ネットいじめ防止のための研修の実施</p> <p>(6) 人権意識を高めるための教職員同士の声かけ</p> <p>2 「塚沢小学校いじめ防止基本方針」に基づく児童の活動</p> <p>(1) 学級目標：いじめ防止に関する内容の設定</p> <p>(2) 「なかよし宣言」：各学級のいじめ防止スローガンの発表・掲示</p> <p>(3) 代表委員による「いじめ防止のためのスローガン」作成及び発表・掲示 「みんなのいいところを見つけ ほかほか言葉が広がる 塚沢小学校」</p> <p>(4) 高崎市主催「いじめ防止缶バッジ」募集：全校児童による応募 作品を返却してもらい、全作品を模造紙に貼り、各教室の廊下に掲示。意識の高揚を図る。</p> <p>(5) なかよし集会：なかよし宣言の振り返り なかよしのリボン</p> <p>(6) たてわり活動：外遊び 5・6年生による読み聞かせ</p> <p>(7) 「ありがとうの木」：「思いやり」「なかよし」「感謝」の心の醸成</p> <p>(8) 音楽集会：学年発表での保護者への公開、自己有用感の高揚 全体合唱での「思いやり・なかよし・感謝」といったテーマが含まれる曲の選定、心の耕し</p>
効果・成果	<ul style="list-style-type: none"> 「みんななかよし いじめ0」が学校全体の合い言葉として十分に認識され、児童の生活の中に浸透している。 各学級の目標の一つにいじめ防止の内容を設けたことで、児童同士の会話の中で、「それは『ちくちく言葉』だよ。『ほかほか言葉』を使おうよ」などという声が聞かれ、お互いに気をつけていこうという態度が見られた。 各学級で、児童が主体となったいじめ防止に向けたスローガンづくりを行ったことで、「自分たちで決めたことだからしっかりと守ろう」という意識が見られた。 音楽集会での全体合唱に向けて、毎朝各教室でめあてを意識しながら練習を重ねたことで、学級の中に一体感が生まれた。また、歌詞の内容にも触れながら練習を行ったことで、歌を通して「思いやり」「なかよし」「感謝」の気持ちを育むことができた。また、保護者・地域に公開することで、大勢の人から褒められ、自己有用感も育むことができた。 たてわり活動では、上級生が下級生の様子を気遣いながら楽しく遊ぶ工夫をすることができた。また、5・6年生が積極的に本読みの練習を重ね、読み聞かせの体験を行ったことで、上級生としての自覚がさらに芽生えてきた。

取組として該当するものに をつけてください(複数回答可)

- (ア) 未然防止のための取組 (イ) 早期発見・早期対応の在り方 (ウ) 教育相談体制の充実
 (エ) 生徒指導体制 (オ) 校内研修 (カ) PDCA サイクル (キ) 児童生徒主体の取組
 (ク) ネットいじめ対策 (ケ) 保護者・地域社会の取組強化 (コ) その他()

いじめ防止のための塚沢小学校の取組について

- 学校スローガン：「みんな なかよし いじめ0」
- 「なかよし宣言」から学級代表委員が決定したスローガン：「みんなのいいところを見つけ、ほかほか言葉が 広がる塚沢小学校」

○具体的な取組

①「なかよし宣言・なかよし集会」

- ・みんながなかよしで、いじめ0のクラスにするために、全クラスで目標を決め、それを、「なかよし宣言」として入学・進級を祝う会の中でクラス全員が声をそろえて発表した。
- ・宣言文は、学年の掲示板などに年間を通して掲示。
- ・「なかよし宣言」をもとに、代表委員会がスローガンを決め、玄関に大きく掲示したり、朝礼で呼びかけたりしている。12月には、「なかよし集会」を開いて、振り返りを行う。



②「たてわり班活動」

- ・自主的な心や思いやりの心をもって、たてわり班活動を行っている。
- ・上級生がリーダーとなり、遊びのルールや読み聞かせの仕方を工夫するなど、下級生の気持ちや立場を考えながら計画を立てている。また、下級生は上級生に感謝の気持ちをもって参加している。
- ・この活動を通して、上級生と下級生のあたたかな人間関係が築けるようになり、なかよしの輪が広がっている。

③「音楽集会」 ～音楽で育てる優しい思いやりの心～

- ・年間に6回開催。学年の発表及び全体合唱で構成している。(朝の集会の時間)
- ・全体合唱では「思いやり・なかよし・感謝」といったテーマが含まれる曲の選定を行い、心の耕しを行う。例：「ともだちになるために」の歌詞に「どこのどんな人とも、きっと分かりあえるさ」・「だれかを傷つけても幸せにはならない」などを毎日練習で歌ったり、集会で全員で歌ったりすることにより、人としてどうあるべきかを自然に身に付けていく。
- ・保護者・地域に公開し、大勢の人から褒められ、自己有用感も育むことができた。

④「いじめ防止缶バッジのデザインの作成と展示」

- ・高崎市教育委員会主催による「いじめ防止缶バッジ」募集に対し、図工主任が要項を作り、全校で取り組んだ。
- ・今回の「いじめ防止缶バッジ」の募集は、今までの学級単位の取組を個人のレベルで考えさせる絶好の機会であった。特活部を中心に話し合い、活用について検討した。その結果、応募作品を返却してもらい、全作品を模造紙に貼り、各教室の廊下に掲示し、意識の高揚を図ることとした。
- ・掲示を授業参観の時期に合わせて行い、保護者への啓発も同時に行う。



⑤いじめ防止に向けた児童・保護者・地域への啓発

- ・4月の始業式の日校長が「いじめ根絶宣言：みんな なかよし いじめ0」を行う。その後、朝礼を活用し、塚沢小学校のいじめ防止基本方針の説明を行い、子ども主体のいじめ防止に取り組んでいくことを確認した。
- ・PTA総会やPTA運営委員会・区長や町内の様々な方が集まる場（例えば、青少年問題協議会）でのいじめ防止のための取組を説明し、いろいろな方に子どもを見守っていただくよう依頼する。
- ・「学校だより」にいじめ防止の取組を載せ、地域の回覧板を活用し、お知らせをする。

「みんな なかよし いじめ0」実現に向けた取組

○平成26年度 第1回朝礼:4月14日(月)

次のような話をしました。

①みんなが幸せで楽しい学校生活を送るために「みんな仲よし。いじめ0」を目指しましょう。今年も、学級目標を決めるときに、どうしたらいじめを防げるか・自分たちはどう行動すべきなのか、クラスみんなで考えてください。そして、なかよし集会で発表してもらいます。



②塚沢小学校の三つの「目指す子ども」について。

(1)「自分で考え、進んで実行できる子」

※勉強で考える
※生活面でも考える
・いいことか悪いことを考えて行動する

(2)「おもいやりのあるあたたかい心の子」

※人の嫌がることは絶対にしない。人の喜ぶことをしましょう。

※心に三つの花を咲かせましょう。

(3)「健康でたくましい子」

※早寝・早起き・朝ごはん

※しっかり運動

※我慢する力

※しっかり身に付けましょう



新しいクラスの友達や先生と力を合わせ、大きな花を咲かせてほしいと思います。

・子どもたちの心に種をまきました。思いやりの種・感謝の種・仲よしの種です。子どもたちの手に注目してください。受け取ったら、両手を閉じ、心の中で「大切に育てます」と念じました。

・受け取った種を育てるには、温かい心ときれいな優しい言葉が必要です。子どもたちが、心の中で大切に育て、素敵な花を咲かせることを期待しています。

○入学・進級を祝う会、なかよし集会 4月25日(木)：司会進行は、集会委員の児童が行い、上学年の子どもから下学年の子どもにエールを送りました。1年間の行事や学習内容がよく伝わりました。「楽しさと同時に苦しい時もあるけれど、乗り越えて頑張ってください。」という言葉が印象に残りました。皆で1年生の入学を祝い、進級を喜び合う素晴らしい会になりました。



5年生にエールを送る6年生。原稿を見ずに、しっかり伝える姿に、感動しました。

※なかよし宣言 ～子どもたちで作上げる「なかよし宣言」～

司会進行は、親善掲示委員会の児童が行いました。子どもたちは、クラスごとに画用紙に書いた「なかよし宣言」を大きな声で、心を一つにして発表しました。



2年1組
ほかほかことばを
たくさんつかって
あたたかクラスにします

2年2組
ほかほかことばを
いっぱいつかって
なかよしのクラスにします。

2年3くみ
ほかほかことばを
いっぱいつかってみんなと
なかよしになります。

3年2組
けんかをしないうで
声をかけ合ってあそぶ
いじめのないクラスを
めざします。

2年4くみ
じぶんからあいさつ
声かけをしてやさしい
気持ちでなかよくします。

3年1組
みんななかよく
たすけ合い、教え合う
クラスにします。

4年1組
一人はみんなのために
みんなは一人のために
行動できるクラスを
めざします。

5年1組
ほかほか言葉をふやし
ちくちく言葉をなくそう
合い言葉にして
楽しい学校・学級を
目指します。

5年2組
わたしたちは
ありがとう、みんなさうが
言える素直な心で
たかひに支え合う
気持ちをもって行動します。

5年3組
ありがとうやぞいじょうぶだよ
などのほかほか言葉をかけ合って
みんなて困っている友達を助けなが
らえがおのあられるクラスにします。

6年1組は
プラスの言葉をいろいろ
に使い思いやりのある、
あたたかいクラスにする

6年2組
友達のよい所を見つけ
感謝の気持ちを伝えて
みんなでハッピーになる。

6年3組
ほかほか言葉をたくさん使
みんなが安心してすごせる
クラスにします

なかよし宣言

○いじめ防止基本方針の周知 第3回朝礼 ・塚沢小学校のいじめ防止の取組について

○国が作ったいじめ防止対策推進法のこと、それに基づいて県も市もいじめ防止基本方針を作ったこと。塚沢小学校でも「塚沢小学校いじめ防止基本方針」を作ったこと。

○「塚沢小学校いじめ防止基本方針の中から、特に、「いじめは、人間として許されない、卑怯な行為であること。」「いじめの根絶は、学校だけで完結するものではなく、児童生徒、家庭、地域、機関等が一体となって取り組むことにより初めて可能になること。」「児童自らが、いじめの問題性に気づき、考え、防止に向けて行動を起こせるような主体的な取組を推進すること。」等を子どもに分かりやすく説明し、みんなで、力を合わせて、いじめ0の学校を作ろうと呼びかけた。



○今までのいじめ防止に向けた取組を振り返った。4月の最初の朝礼で「みんな なかよし いじめ0」の話を校長がしたこと、各クラスでいじめ防止のために仲よし宣言を考え、入学・進級を祝う会で発表したこと。今、それを実践中であることを確認した。

○今年度の新しい取組を紹介した。

4年生以上の代表委員で構成される代表委員会で、各学級のなかよし宣言をまとめて、「塚沢小学校のスローガン」を決めたこと。5月30日の開校記念日集会でパワーポイントを使って紹介していたが、全校朝礼で6年生の代表委員に登場してもらい、もう一度発表し、全校児童に呼びかけてもらった。

**みんなで 実践してい
きましょう。**



【いじめ防止のスローガン】

**みんなのいいところを見つけ ほかほか言葉が 広がる
塚 沢 小 学 校**

○いじめ防止の取組：保護者や地域の方にお知らせしました。
 ・青少年問題協議会 ・PTA 運営委員会



・塚沢公民館で実施された「青少年問題協議会」に、校長・教頭・高橋先生・青木先生で出席し、このスローガンを紹介し、いじめのない学校づくりに子どもたちが取り組んでいることを紹介してきました。



・「いじめ防止対策推進法」のことで、それに基づいて県も市もいじめ防止基本方針を作ったこと。塚沢小学校でも「いじめ防止基本方針」を作ったこととその内容について紹介し、「いじめ防止のために学校と家庭とが連携していきましょう」と呼びかけました。

○いじめ防止缶バッジ取組の活用

「いじめ防止缶バッジ」のデザイン

学校名 高崎市立塚沢小学校
 学年 6 名前

1 デザインのテーマ
 「いじめ防止」「なかよし」「協力」「助け合い」「愛」「高崎市」「友だち」「和」「輪」「声かけ」をイメージして、絵と言葉を教えてください。

2 缶バッジについて
 大きさ 直径32mm → 実際の大きさ

デザイン

注意！

- 1 デザインに必ず絵と言葉を教えてください。
- 2 他の作品をまねて書かないようにしましょう。
- 3 色はクレヨン、色鉛筆、水性ペンのどれかを使ってください。
- 4 デザインの説明を書いてください。
- 5 一人につき1つの作品しか出せません。

デザインした思いや説明を書いてください。
 なかよしの輪、みんなで広げよう、ちので地球をまわって手をつないでいる輪をまわりたい。そして世界各国、いじめがなくそうと願ったこのデザインを書きました。

高崎市教育委員会主催による「いじめ防止缶バッジ」募集に対し、図工主任が要項を作り、全校で取り組むことにした。子ども主体のいじめ防止に取り組む本校としては、①学級目標の中にいじめ防止のための目標を学級の児童と担任で考える。②なかよし集会において、学級絵で決めた目標を全員で「なかよし宣言」として発表する。③代表委員会で、なかよし宣言をもとに、いじめ防止のためのスローガンを決め、全校児童に呼びかける。等の取組を行ってきた。

今回の「いじめ防止缶バッジ」の募集は、今までの学級単位の取組を個人のレベルで考えさせる絶好の機会であった。単に応募しただけではもったいないので、特活部を中心に話し合ってもらい、活用について検討した。その結果、応募作品を返却してもらい、全作品を模造紙に貼り、各教室の廊下に掲示し、意識の高揚を図ることとした。

○音楽で育む優しい心・思いやりの心→いじめを決してしない心を育てる
 ・具体例：音楽集会：6年生：5月23日（金）



6年生は手拍子（クラッピング）を主役にした合奏曲「ギャラクシー～銀河を越えて～」 「トワイライト～夕暮れの街で～」と合唱「虹色のハーモニー」を発表しました。

6年生のクラッピングは、はじめのうちは、どんなリズムを叩いているのか分からない程ばらばらだったのですが、リーダーを中心とする練習の成果が見事に出て、当日は、2つの掛け合いのリズムが明確に聴こえ、クラッピング合奏の楽しさが伝わってきました。

合唱「虹色のハーモニー」では、「他学年の目標となるような歌」を目指して練習してきた6年生ならではの素晴らしい合唱になりました。特に、前半部分は「やさしく語るように」、曲の山では「みんなの上に歌声の橋が架かるように」と、詩の内容が伝わるように、発音や強弱、響きに気を付けて歌っていた点が素晴らしいと思いました。真剣に歌う6年生の明るい歌声が体育館に響き渡りました。

多くの保護者の方も聴きにきてくださいました。「とっても上手なので驚きました。」と、多くの保護者の方が言ってくださいました。人々を感動させる力をもった素晴らしい6年生の演奏でした。

全校合唱では、「ともだちになるために」を歌いました。歌詞の中に、「**どこのどんな人とも、きっと分かりあえるさ**」「**だれかを傷つけても幸せにはならない**」というフレーズがあります。私は、特にこの部分に心ひかれます。人の心の在り方を教えてくれます。リズムに乗せてこの歌詞を口ずさむたびに子どもたちの心が洗われていくように感じます。また、この歌詞から、4月25日の入学・進級を祝う会での、各クラスの仲良し宣言を思い出しました。毎朝、いろいろなクラスから「ともだちになるために」を歌う子どもたちの歌声が聴こえてきます。友達と一緒に歌いながら友達とのよりよい関係を築いていってほしいと思います。

ともだちになるために

ともだちになるために

人は 出会うんだよ

どこの どんな人とも

きっと 分かりあえるさ

ともだちになるために

人は 出会うんだよ

同じような 優しさ

もとめあって いるのさ

※今まで出会った たくさんの

きみと きみと きみと きみと

きみと きみと きみと

これから出会う たくさんの

きみと きみと きみと

きみと ともだち

ともだちになるために

人は 出会うんだよ

一人 さみしいとが

だれにでも あるから

ともだちになるために

人は 出会うんだよ

だれかを 傷つけても

幸せには ならない

※楽風

新沢としひこ 作詞

中川ひろたか 作曲

○なかよし宣言の振り返り(平成 25 年 なかよし集会 12 月 8 日)

なかよし週間の一つの取組として、「なかよし集会」を行いました。1年生は、学級ごとに「なかよし宣言」を、2年生～6年生は、1学期に行った「なかよし宣言」の振り返りとこれからの目標を代表の人が発表しました。主なものを紹介します。



【1年生のなかよし宣言】

- ・やさしいきもちで、ゆずりあってなかよくします。
- ・ほかほか言葉を使って、みんななかよくするクラス。
- ・ほかほか言葉をたくさんつかうクラスにします。
- ・おともだちともっとなかよくなるためにほかほかことをたくさんつかいます。

2年生：今まで困っている子がいたら声をかけたり、誰にでも優しくしたりしてきました。もっともっと優しくて元気いっぱい仲良しクラスにするために、さらに周りの子を気にかけて、宣言を毎日読んで自分で意識したりしていきます。



3年生：困っている友達がいたら、声をかけたり一緒にたすけたりしています。今後は、もっと素直になって、「ありがとう」や「ごめんね」のほかほか言葉をたくさん使いたいです。

4年生：全員遊びで、楽しく遊んで自分の気持ちもいえるようになりました。お互い声もかけられるようになりました。



5年生：困っている友達がいたら、「大丈夫」などと声をかけ、クラスのみんなでいろいろなことに取り組み協力して活動してきました。また、帰りの会では日直が、「今日のありがとう」を発表し感謝の気持ちを毎日伝えてきました。これからは、誰に対しても思いやりを持って行動できるようになるために、クラス全員のいいところである一番星を見つけ、みんなのいいところを認めることで、どんなときも思いやりを持って友達に接することができるクラスを目指します。



一人一人の決意を書いた
なかよしのリボン

6-1：友達が困っているときにみんなで助け合えるクラスです。これからも自分から進んで周りのことを考え、ほかほか言葉をたくさん使うようにしていきます

6-2：よいところは困っている人を助けられるところと、気持ちよく協力できることです。課題は、言葉づかいに気をつけることです。

6-3：みんなを平等に考えたり、男女なかよく行動したりすることができます。これを、さらによくするために思いやりをもって、人のためになる行動を積極的にするようにします。また、相手が喜ぶような言葉づかいをします。

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	群馬県	学校名	渋川市立渋川中学校
学校情報等	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の別 (国立 ・ <u>公立</u> ・ 私立) ・児童生徒数 (316人) ・学級数 (11学級) ・教職員数 (28人) 		

取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を設置し、いじめの未然防止、早期発見および早期対応を組織的に行っている。具体的には 毎月「悩みアンケート」を実施し、いじめの発見をはじめ生徒の悩みや生徒間のトラブルなどを発見する手立てとしている。 生活記録ノートを全員に毎日記録させ、担任がチェックし生徒の実態把握に利用するとともに、ノートを通しての交流により良好な人間関係づくりに役立てている。 チャンス相談・5分間面談の積極的な活用。 スクールカウンセラーによる全員面接の実施。 人権週間における標語づくり・講話・ビデオ視聴。 ・生徒が主体的にいじめ対策に取り組むことにより意識を高めさせる。 生徒会本部による「いじめ防止フォーラム」への参加。 生徒会本部によるいじめ防止啓発ビデオ「踏み出せ一歩」の製作と上映。(平成25年度) 生徒会本部によるいじめ防止啓発スローガン「うみのかみさま」の提案(平成26年度)
効果・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに対する職員間の共通理解が進み、早期発見・早期対応の態勢づくりができた。 いじめアンケートや生活記録ノートのチェックあるいは生徒との会話を通して情報収集が充実してきた。また、定例の生徒指導委員会での情報交換や方針の決定を受けていじめ対策委員会や職員会議への働きかけがスムーズにできるようになった。 問題行動や生徒間のトラブルに対する対応が複数対応・迅速対応という基本を重視できている。 ・生徒の間にいじめに対する罪悪感と傍観したことに対する罪の意識が芽生えた。 「いじめはダメだと分かっても行動を起こせず、加担してしまう」弱い自分に気づいてもらうという趣旨のビデオ作品は多くの生徒に共感を与えた。 ・生徒会本部役員が先輩の活動を見習い、いじめ防止への自主的な取り組みが徐々に継続できるようになった。 平成25年度の「踏み出せ一歩」の取り組みを受けて、平成26年度の生徒会本部は「おぜのかみさま(群馬県セーフネット標語)」をもじって「うみのかみさま(渋川中いじめ防止標語)」を作って、生徒への働きかけを続けている。

取組として該当するものにつけてください(複数回答可)			
(ア) 未然防止のための取組	(イ) 早期発見・早期対応の在り方	(ウ) 教育相談体制の充実	
(エ) 生徒指導体制	(オ) 校内研修	(カ) PDCA サイクル	(キ) 児童生徒主体の取組
(ク) ネットいじめ対策	(ケ) 保護者・地域社会の取組強化	(コ) その他()	

いじめ問題に対する取り組み（資料）

1. 日々の取り組み・実践

① 悩みアンケート

毎月悩みアンケートを実施し生徒の状況を把握し、きめ細かな対応をしている。いじめの発見および生徒間のトラブルや進路の悩みなどに対応。

② 生活記録ノート

毎日の記録を担当がチェックしコメントを添えて生徒に返す。担任とのコミュニケーションを図る。

③ チャンス相談、5分間面談

④ スクールカウンセラーによる面談

⑤ 人権週間における標語作り・講話・ビデオ視聴

「あなたの悩み」と「最近の学校の様子」についてのアンケート

1. 学校生活楽しく過ごせていますか？
 ア. とても楽しく過ごしている イ. 普通楽しく過ごしている ウ. 多少で苦しい
 エ. 苦しい

2. 友達関係で悩むことがありますか？ 下の□に悩んでいることを書いてください。
 ア. はい イ. いいえ

3. 毎日生活記録ノート記入する人、担任や先生に悩みを相談する人がいるか？
 ア. はい イ. いいえ

4. 毎日生活記録ノートで悩んでいること（悩み）や解決したこと（よくない悩み）を書いてください。（必要に応じて、先生に相談したいことや先生に伝えたいことを書いてください。）



人権集会より



人権標語

2. 生徒会によるいじめ防止啓発ビデオの作成（平成25年度）



3. 生徒会によるいじめフォーラムへの参加



学校代表として発表(H25.6.12)

4. 生徒会によるいじめ防止啓発スローガンの提案



平成26年度本部役員 の提案

生徒会本部役員発信の いじめ防止に対する取り組み

- ①県いじめフォーラムを受けての伝達
- ②構成的グループエンカウンター
- ③映画「踏み出せ一歩」制作&上映
- ④いじめ撲滅旗の作成

「踏み出せ一歩」ができるまで

生徒に、いかに主体性をもたせるか？

⇒ 押しつけではなく『選択』させる

**いくつかの選択肢を与え、ある程度の方
向性は教師が導いてあげる**

ストーリー構成

誰に着眼点をあてるか？

- ①加害者
- ②被害者
- ③傍観者

本校の生徒の実態から決定

**タイトルは生徒会スローガン
「踏み出せ一歩～by your self～」**

ストーリー構成

起・承・転・結に沿ったストーリー構成

起：クラス内にいじめが起こっている

承：いじめがダメだと分かっているも
行動を起こせず、加担してしまう

転：自己嫌悪に陥っているところに
勇気ある友だちの登場

結：その友だちの影響を受け、行動を起こす



配役の決定

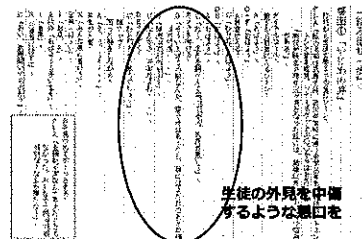
加害者役（3人）・被害者役（1人）・傍観者
役（4人）を、生徒会本部役員8人で割り振る

配役の選択肢を与え、生徒たち自身で選択させる

注意点

配役により、生徒の精神的負担が生じる恐れあり

台本（セリフ）作成



生徒の外見を中傷
するような悪口を

主体性を持たせる
ために、ほぼ生徒
が考えました

どんなセリフなの
かイメージを与え
るだけ

準備完了

撮影&編集について

準備するもの

学校にあるもので作成可能

- ・デジタルビデオカメラ
- ・ICレコーダー
- ・三脚
- ・映像編集ソフト (COREL VIDEOSTUDIO)
(WINDOWS メディアプレーヤー)

編集そして完成

ここまでで費やした時間

発案～配役	1時間
ストーリー構成	1日
台本	3日
撮影	2日
編集	4日

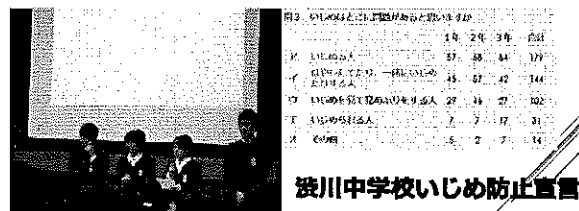
**10～15日あれば
できてしまいます**

渋川中学校の取り組み

- ①県いじめフォーラムを受けての伝達
- ②構成的グループエンカウンター
- ③映画「踏み出せ一歩」上映
- ④いじめ撲滅旗の作成

毎年10月最終週に行われる文化活動発表会で生徒会本部役員が中心に行いました

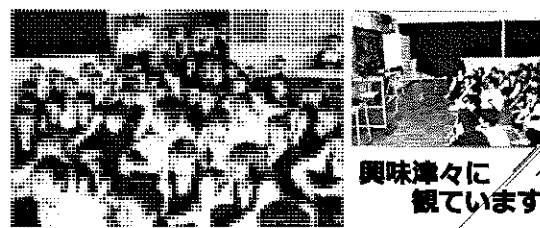
①県いじめフォーラムを受けての伝達



②構成的グループエンカウンター



③映画「踏み出せ一歩」上映



④いじめ撲滅旗の作成



取り組み後の効果

生徒

- ・「いじめ」に対する人権意識が強まった
- ・「いじめ」の抑止につながっている
- ・学校としての一体感が深まった
- ・学級に下ろして、「いじめ」についての学級討論や、道徳の授業に生かすことができた

取り組み後の効果

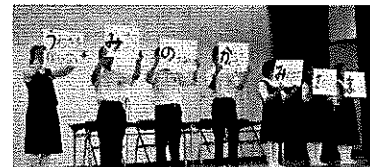
本部役員

- ・充足感を味わうとともに、学校生活で友だちが困っている様子に対し敏感に反応し、自信をもって積極的に行動を起こせるようになった
- ・それぞれの役を演じたことが、当事者の気持ちを考えるきっかけとなり、「いじめ」に関わる人間の背景を考えられるようになった

その後のつながり

今年度の生徒会本部役員による活動
 渋川中学校いじめ撲滅スローガン
 「うみのかみさま」

うわさをしない
 みずかさない
 のらない
 かかわらない
 みんなで
 さべつに
 まけない



その後のつながり

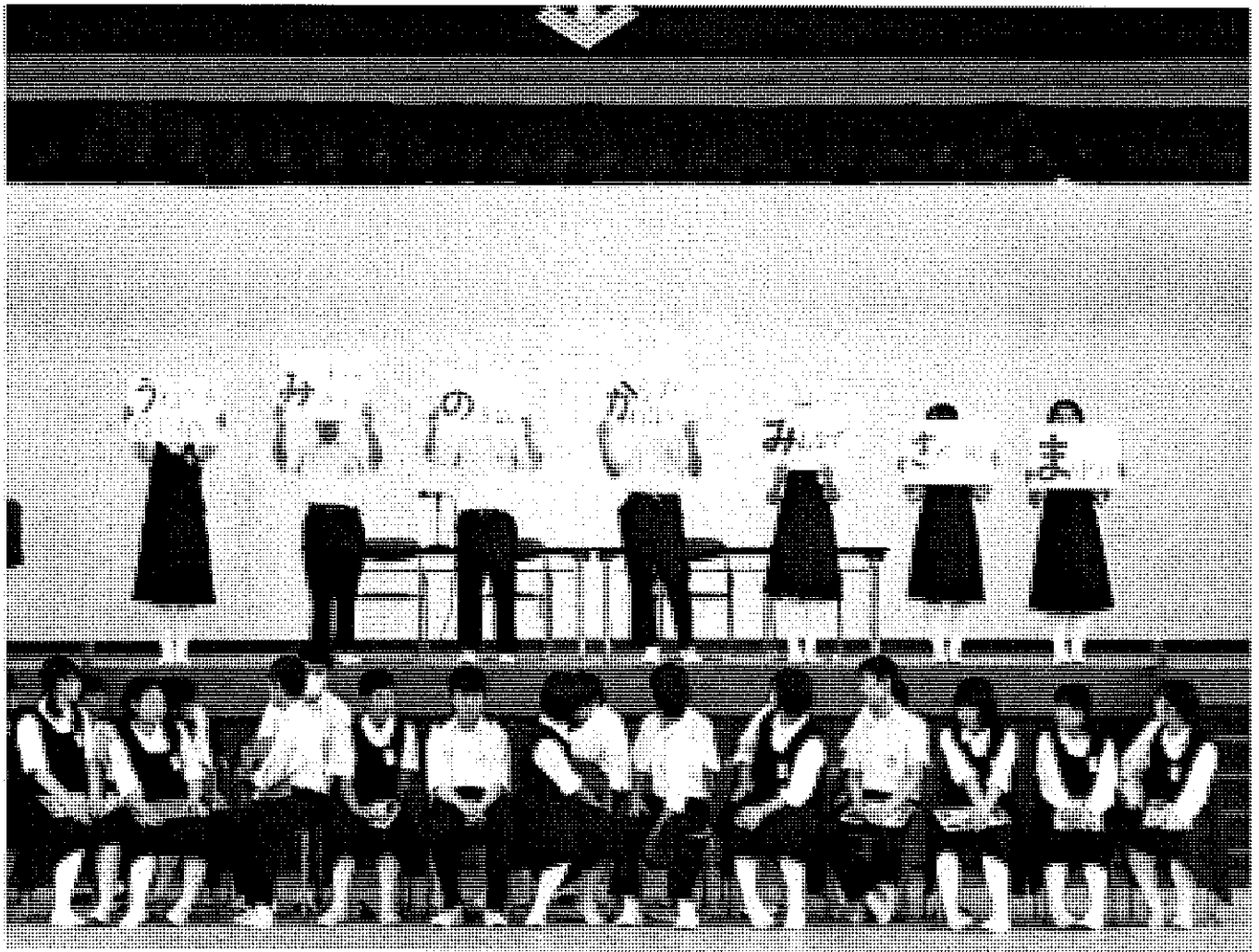
群馬県視聴覚コンクール 優秀賞受賞



生徒主体のいじめ防止に対する取り組み

- ・学校の生徒全員を動かす取り組みには、生徒会本部役員からの発信が有効的（時間、労力、運営、他生徒からの信頼など）であると改めて実感した
- ・毎日が忙しい仕事の中、時間、労力は多大にとられる取り組み内容ではあったが、自分に返ってくる達成感、生徒の成長も多大である





<p>か 写真も あくらない</p>	<p>み せつたい あわない</p>	<p>の 個人情報 のせない</p>
-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

ローブネリー主催
「おぜのかみさま(純潔守さま)」
[Illustration of a mermaid]

<p>1. おぜのかみさま(純潔守さま)</p> <p>2. せつたいあわない</p> <p>3. のせない(個人情報)</p> <p>4. かき込まない(差口)</p> <p>5. みない(有害サイト)</p> <p>6. だんざない(出航)</p> <p>7. だんざない(出航)</p>	<p>1. 純潔守さま(純潔守さま)</p> <p>2. せつたいあわない</p> <p>3. 個人情報(個人情報)</p> <p>4. 差口(差口)</p> <p>5. 有害サイト(有害サイト)</p> <p>6. 出航(出航)</p> <p>7. 出航(出航)</p>
--	--

みんなの力を
安全・安心に使うために

おぜのかみさま

<p>か 写真も あくらない</p>	<p>み せつたい あわない</p>	<p>の 個人情報 のせない</p>	<p>ま だんざない まらる</p>
-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

1. おくちない(写真)

- 他人の写真を勝手に撮影したり、盗撮したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 写真を勝手に撮影したり、盗撮したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 写真を勝手に撮影したり、盗撮したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。

2. せつたい(あわない)

- 他人をいじめたり、脅かしたり、侮辱したりすることは、他人の権利を侵害する行為です。
- 他人をいじめたり、脅かしたり、侮辱したりすることは、他人の権利を侵害する行為です。
- 他人をいじめたり、脅かしたり、侮辱したりすることは、他人の権利を侵害する行為です。

3. のせない(個人情報)

- 他人の個人情報(名前、住所、電話番号、メールアドレス、パスワードなど)を勝手に公開したり、利用したりすることは、他人の権利を侵害する行為です。
- 他人の個人情報(名前、住所、電話番号、メールアドレス、パスワードなど)を勝手に公開したり、利用したりすることは、他人の権利を侵害する行為です。
- 他人の個人情報(名前、住所、電話番号、メールアドレス、パスワードなど)を勝手に公開したり、利用したりすることは、他人の権利を侵害する行為です。

4. かき込まない(差口)

- 他人の差口(口元)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 他人の差口(口元)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 他人の差口(口元)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。

5. みない(有害サイト)

- 有害サイト(アダルトサイト、出会い系サイト、出会い系サイト、出会い系サイト)を利用したり、アクセスしたりすることは、他人の権利を侵害する行為です。
- 有害サイト(アダルトサイト、出会い系サイト、出会い系サイト、出会い系サイト)を利用したり、アクセスしたりすることは、他人の権利を侵害する行為です。
- 有害サイト(アダルトサイト、出会い系サイト、出会い系サイト、出会い系サイト)を利用したり、アクセスしたりすることは、他人の権利を侵害する行為です。

6. だんざない(出航)

- 他人の出航(出航)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 他人の出航(出航)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 他人の出航(出航)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。

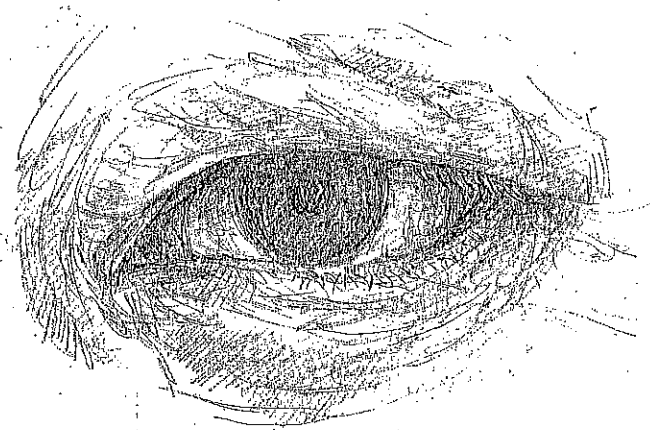
7. だんざない(出航)

- 他人の出航(出航)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 他人の出航(出航)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 他人の出航(出航)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。

8. だんざない(出航)

- 他人の出航(出航)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 他人の出航(出航)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。
- 他人の出航(出航)を勝手に覗いたり、撮影したりすることは、他人のプライバシーを侵害する行為です。

いじめをなくす



ま げない
さ べつに
み んなで
か かわない
の うらない
み すごさない
う わさを信じない

「あなたの悩み」と「最近の学校の様子」 についてのアンケート

H25. 11月実施

____年 ____組 ____番 氏名 _____

1 学校生活を楽しく過ごせていますか？

- ア とても楽しく過ごしている イ まあまあ楽しく過ごしている ウ ふつうである
エ あまり楽しくない オ 楽しくない

2 友達関係で悩みはありますか？あったら、下の口に悩んでいることを書いてください。

- ア ない イ ある

3 周りの友達で困っている人、悩んでいる人はいませんか？いたらどんなことを悩んでいるのか書いてください。

4 最近の学校生活で気がついたこと（よい面）や気になること（よくない面）を書いてください。（上の2、3で特に書くことがない人は必ず書いて下さい。）

記入例：（よい面）きちんとした身だしなみに登下校できている。
（よくない面）学校に関係のないものを持ってきている人がいる。

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	岐阜県	学校名	各務原市立尾崎小学校
学校情報等	・設置者の別（国立・ 公立 ・私立） ・児童生徒数（429人） ・学級数（16学級） ・教職員数（27人）		

取組の概要	<p>(1) いじめの問題を考える児童集会と「なかよし宣言」</p> <p>全校児童がいじめを自分たちの問題として考える機会として児童集会を実施した。この集会では、学校生活の中で知らず知らずのうちに独りぼっちな仲間を生んでしまったり、自分ではじゃれ合いのつもりだが相手に嫌な思いをさせてしまったりする場面を代表児童による寸劇で表し、登場人物の言葉や行動について話し合った。これにより仲間の気持ちを考えて行動することの大切さを確認するとともに、全校児童の総意として「尾崎小学校・なかよし宣言」をつくり、守っていくことを確かめあった。</p> <p>この宣言では、①相手の気持ちを考えて行動すること、②相手を傷つける言葉を言わないこと、③一人でも注意したりやめたりできる強い心の自分を目指すこと、の3点を挙げ、誰もが安心して生活できる学校を目指す気運を児童自らが高めた。</p> <p>(2) 「ふわふわ言葉」の奨励と「決意の封筒」</p> <p>上記の「尾崎小学校・なかよし宣言」を日常生活の中で具現化する方策として、言葉遣いに関する取組を実践した。低学年の児童にも分かりやすいように、相手の気持ちを考えた言葉を「ふわふわ言葉」、相手の気持ちを傷つける言葉を「チクチク言葉」と名付けた。「ふわふわ言葉」に関しては、仲間の言葉によって嬉しい気持ちや温かい気持ちになった体験を児童がカードに記し、これを掲示して全校の仲間へと広げた。「チクチク言葉」に関しては、これまでの反省から「この言葉はもう言わない」と心に決めた児童が、その言葉を所定の用紙に書いて「決意の封筒」と名付けた封筒に入れて封をするという取組により、自分自身との約束をつくりこれを守ろうとする態度の育成を図った。</p>
効果・成果	<p><効果></p> <ul style="list-style-type: none"> いじめがよくない行為であることを児童は誰もが知っている。しかし、新聞やテレビで報じられるいじめは、加害者が明らかな悪意をもっていたり、被害者が自殺するなどすでに重大事態に発展した後であったりして、自分たちの日常的な学校生活とはかけ離れたものとして捉えがちである。しかし、本実践の取組により、日頃の自分たちの言葉や行為も、そこに相手を思いやる心がなければ仲間を傷つけたり悲しませたりする場合があります。いじめが自分たちにとって身近な問題であることに気付くことができる考えた。また、いじめの問題について主体的に考え、誰もが安心して生活できることを目指す学校の気運を育むことをねらいとして実践した。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 必ずしも悪意に満ちた行為でなくても、相手を思いやる心が十分でなければ、結果として仲間を傷つけてしまう場合があることに多くの児童が気付くことができた。 教師から与えられるものではなく、自分たちの言葉として「尾崎小学校・なかよし宣言」を出したことで、問題解決の主体者意識が高まり、学校の約束として大切にしていこうとする態度が高まった。 同じように「決意の封筒」も、教師が「使ってはいけない」と約束を与えるのではなく、児童一人一人が「もう言わない」という自分自身との約束をつくることによって、主体者意識を高めることができた。

※ 取組として該当するものに○をつけてください（複数回答可）。

- (ア) 未然防止のための取組 (イ) 早期発見・早期対応の在り方 (ウ) 教育相談体制の充実
 (エ) 生徒指導体制 (オ) 校内研修 (カ) PDCA サイクル (キ) 児童生徒主体の取組
 (ク) ネットいじめ対策 (ケ) 保護者・地域社会の取組強化 (コ) その他 ()

1. ねらい

いじめの問題を児童が自分たち自身の問題として考え、主体的に解決しようとする態度を養う。

2. 取組

12月4～10日の国連「人権週間」に合わせた岐阜県の取組「ひびきあいの日」を受け、本校においては12月をいじめの問題を考える取組の月間と定め、以下の取組を実施した。

(1) いじめの問題を考える児童集会と「なかよし宣言」

児童会「企画委員会」の計画による児童集会にて、全校児童がいじめの問題について考えた。ここでは、学校生活の一場面を代表児童による寸劇に表し、登場人物の言葉や行動について全校で感想を述べ合った。寸劇の内容については、あからさまないじめの場面を避け、知らず知らずのうちに独りぼっちの仲間を生んでしまったり、自分ではじゃれ合いのつもりだが相手に嫌な思いをさせてしまったりと、誰もが自分の出来事として受け止めやすい場面を取り上げた。

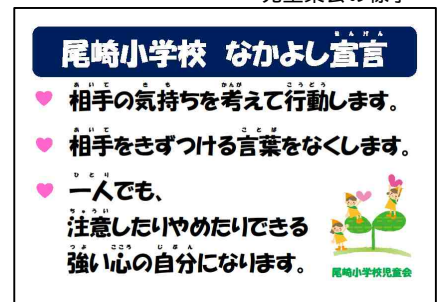
この寸劇をもとに「自分のことばかりでなく、仲間の気持ちを考えて行動すること」の大切さを確認し、全校児童の総意として「尾崎小学校・なかよし宣言」を作成した。

この宣言を受けて「仲間の気持ちを考える」という決意の印として黄色い「なかよしリボン」を用意し、多くの児童が名札の隅に着けた。

また、児童会の歌声委員会と連携し、仲間の尊さを題材にした「すてきな友だち」を全校の「12月の歌」とし、児童集会や毎日の朝の会で継続的に歌って学校全体の温かい雰囲気づくりを図った。



児童集会の様子



なかよし宣言



リボン



12月の歌「すてきな友だち」

(2) 「ふわふわ言葉」の奨励と「決意の封筒」

上記の児童会「尾崎小学校・なかよし宣言」を日常生活の中で具現化する方策として、言葉遣いに関する取組を実践した。12月の生活目標を「思いやりのある言葉を使おう」とし、相手の気持ちを考えた言葉を「ふわふわ言葉」、相手の気持ちを傷ついたり嫌な思いをさせたりする言葉を「チクチク言葉」と呼んで、「ふわふわ言葉」の使用を奨励した。ここでは、仲間の言葉によって嬉しい気持ちや温かい気持ちになった体験を児童がカードに記し、これを掲示して全校の仲間へと広げるようにした。

一方の「チクチク言葉」については、児童一人一人が自ら考えて行動する態度を育てるねらいから、「決意の封筒」と名付けた一枚の茶封筒を用意した。「今までこの言葉で仲間に嫌な思いをさせてしまったけれど、今日からはもう言わない。」と心に決めた児童がその言葉を所定の用紙に書き、この封筒の中に入れて封をする。この決意行為によって、一人一人が自分自身との約束を作りこれを守ろうとする態度の育成を図った。



「決意の封筒」

以上(1)(2)の取組を通して、相手の気持ちを考えて行動しようとする主体的な態度を育んだことが、いじめの未然防止につながっている。



12月の生活目標と「ふわふわ言葉」の取組

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	熊本県	学校名	南小国町立南小国中学校
学校情報等	・設置者の別 (国立 ・ <u>公立</u> ・ 私立) ・児童生徒数 (95人) ・学級数 (4学級) ・教職員数 (18人)		

取組の概要	<p>生徒会執行部が中心となって行った取組</p> <p>【平成 25 年度 生徒会いじめ根絶目標の設定】</p> <p>「一人一人が相手の気持ちを 考えよう！ 理解しよう！ 受け止めよう！」</p> <p>・いじめについてのアンケートの実施と全生徒への呼びかけ</p> <p>生徒集会において、日常生活での具体的な事例を挙げ、それがいじめかどうかを考えさせた。文化祭で結果を発表し、「されている人がいじめだと感じればいじめである」ことを全校生徒に訴えた。いじめをしてしまう原因やいじめをしないために必要なことについても考えさせた。文化祭での発表では、いじめをしてしまう心は誰にでもあり、一人一人が相手の気持ちを考え、理解し、受け止めることが大切であると訴えた。</p> <p>【平成 26 年度 生徒会いじめ防止目標の設定】</p> <p>「傷つけない強さより傷つけない優しさを ~仲間意識を持って~」</p> <p>・根絶から防止へ</p> <p>いじめをなくそうと考えをさらに進めて、いじめが起きないような人間関係を作ることが大切だと考え、目標を設定した。また、そのための具体的な取組を実行するように考えた。</p> <p>・仲間意識を高める取組</p> <p>同じ趣味や趣向の生徒の存在を知ることによって親近感を覚え、仲間意識を高める取組を行った。</p>
効果・成果	<p>昨年度まで、人間関係のトラブルや、それに伴い「いじめ」につながる事象が起こっていた。生徒会を中心に「いじめに関するアンケート」を実施することで、いじめという現象のみをなくそうとするだけでなく、その原因になっている自己中心的な考え、誤解や偏見などについて考えることができた。</p> <p>また、自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちを考えたり相手の考えを聞いたりすることで、お互いの考え方の違いや思いを受け止めることができることなどを生徒たち自身で考えることができた。</p> <p>これらのことを文化祭や教育フォーラム等で発表し評価されたことで、生徒会執行部の生徒たちも自分たちの考えていることや、やろうとしていることに自信を持つことができ、新執行部でも引き続いて取り組もうとする意欲につながっている。</p> <p>本年度は、意識の変化と同時に「仲間意識」を育む具体的な取組を行うように考え、1学期に「この指とまれ大作戦」を実施した。好きなアイスの味や、お気に入りの消しゴムなど4つの質問を考え、その質問をきっかけにいろいろな人と話をするきっかけを作った。また、同じ意見をもつ同級生を見つけたり、違った意見をもつ友達と話をしたりすることでお互いの理解が深まった。今後も、実施方法を工夫改善して、より仲間意識を高められるように実施していく予定である。</p>

取組として該当するものに をつけてください(複数回答可)

- (ア) 未然防止のための取組 (イ) 早期発見・早期対応の在り方 (ウ) 教育相談体制の充実
 (エ) 生徒指導体制 (オ) 校内研修 (カ) PDCA サイクル (キ) 児童生徒主体の取組
 (ク) ネットいじめ対策 (ケ) 保護者・地域社会の取組強化 (コ) その他()

【取組についての添付資料】

○いじめに関するアンケート調査

- 1 A君はなにもしないのに「ムカつく」と言われます。何か失敗してもA君だけが言われます。
いじめと思う・・・80% いじめと思わない・・・20%
- 2 じゃんけんをして負けるとデコピンをされるとい遊びをしていて、B君はいやだけど、友達なので我慢しています。
いじめと思う・・・11% いじめと思わない・・・89%
- 3 CさんがDさんと呼んでいます。だけどDさんは返事をしません。
いじめと思う・・・77% いじめと思わない・・・23%
- 4 F君はG君に鉛筆を貸してくれと言われました。返ってこないのは分かっているけど、断れないので貸してあげました。
いじめと思う・・・15% いじめと思わない・・・85%
- 5 面白いことがあり、みんな笑っていました。Hさんだけが「なんであんたまで笑っているの」と言われました。
いじめだと思う・・・80% いじめと思わない・・・20%
- 6 友達同士が話しています。I君が「おまえはバカだ」、J君が「お前はアホだ」といっています。
いじめだと思う・・・20% いじめと思わない・・・80%
- 7 KさんとLさんが喧嘩しました。Kさんに便乗して、Kさんの友達もLさんを無視しています。
いじめだと思う・・・76% いじめと思わない・・・24%
- 8 M君が友達といっしょに遊ぼうとしていくと、「なんでお前まで来るの」と言われました。
いじめだと思う・・・83% いじめと思わない・・・17%

<p style="text-align: center; background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px;">何がいじめなの？</p> <p style="font-size: small;">1 A君はなにもしないのに「ムカつく」と言われます。何か失敗してもA君だけが言われます。 2 じゃんけんをして負けるとデコピンをされるとい遊びをしていて、B君はいやだけど我慢しています。 3 CさんがDさんと呼んでいます。だけどDさんは返事をしません。 4 F君はG君に鉛筆を貸してくれと言われました。返ってこないのは分かっているけど、断れないので貸してあげました。 5 面白いことがあり、みんな笑っていました。Hさんだけが「なんであんたまで笑っているの」と言われました。 6 友達同士が話しています。I君が「おまえはバカだ」、J君が「お前はアホだ」といっています。 7 KさんとLさんが喧嘩しました。Kさんに便乗して、Kさんの友達もLさんを無視しています。 8 M君が友達といっしょに遊ぼうとしていくと、「なんでお前まで来るの」と言われました。</p> <p style="font-size: large; color: red; text-align: center;">答えは「いじめだ」と思っている人がどう思うか？です。</p>	<p style="text-align: center; background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px;">いじめとは？</p> <p style="color: red;">質問の内容を一方的に受け続け、被害者が「嫌だな」「やめてほしい」と思っていたら、それが、いじめの始まりとなる。</p> <p style="color: red;">これは「遊びだ」などと決めつけてしまうことが一番危険！！</p>	<p style="text-align: center; background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px;">大切なこと</p> <p style="color: red;">日常生活で小さな事に気を配り、相手の気持ちを考えて、お互いを理解していくこと</p>
--	---	---

○第1回この指とまれ大作戦

人は、自分と同じ趣味、同じような価値観を持った人に親近感を覚えやすい。今まで苦手だと思っていた人でもちょっとしたことがきっかけで仲良くなったりする。生徒たち同士で、お互い共感できる事柄を見つけることができれば仲間意識が持てるようになり、いじめの防止につながる考えた。

1回目は身近な事で誰でも答えられる質問にした。同じ趣味がわかり共感を覚える生徒もいれば、「何で？」と、自分とは違った趣味の友達と会話をするきっかけにもなった。



夏休み前の短い時間での取組だったので、これをきっかけに他学年の人と話したりする場は設定できなかったが、第2回では、今まであまり接点がなかった生徒同士が話すきっかけにしたり、違った趣味や考えを持った人と意見を交換する場にしたりすることで、違った考えを持つ人を理解する場面になるようにしたい。そのために質問の工夫をしたり、掲示の方法も含めた活動を工夫したりして継続的に実施する予定である。

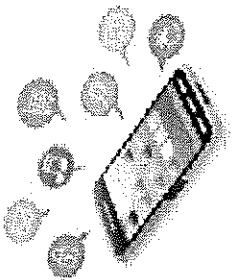
(別紙様式)

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	兵庫県	学校名	兵庫県立姫路飾西高等学校
学校情報等	・設置者の別 (国立・ <u>公立</u> ・私立) ・児童生徒数 (793人) ・学級数 (20学級) ・教職員数 (56人)		

取組の概要	<p>1 取組方針</p> <p>スマートフォンの利用状況アンケートをもとに、SNS等ネット上のトラブル、問題点について調査、分析を行い、生徒自身が被害者にも加害者にもならないこと、また、利用のあり方を通して生活を見つめ直し、より良い人生を送ることを目標に、専門家の助言を受けながら、生徒会執行部を中心として生徒自らが使用に関するガイドラインを作成する。</p> <p>2 方針に基づく取組の内容及び方策</p> <p>生徒会を中心にアンケートを作成し、本校生を含め他校生にも協力を依頼し(23校2034人)、調査を行う。専門家の助言を受けながらアンケート結果の集約、分析を行う。さらに、他校の生徒会にも呼びかけ、高校生自身がスマートフォン利用に関するガイドラインを作成する。そのうえで、ホームルーム活動等を通して、生徒会による全校生徒への啓発活動、及び発表を行い、意識を高める。また、保護者向け研修を実施し、啓発活動を行う。以上の調査、分析を踏まえて生徒向け発表会を行った後、振り返りアンケートを実施し、取組の成果、定着度合を検討する。</p> <p>3 組織体制 (組織図は含まない)</p> <p>いじめ対応チームには、校長、教頭、生徒指導部長、各学年主任、養護教諭、必要に応じてスクールカウンセラー、民生・児童委員を含む。また、スマホガイドライン作成は、生徒会執行部、生徒指導部、アドバイザーが中心となる。</p>
期待される効果・一学期の取組成果	<p>1 期待される効果</p> <p>アンケート作成、調査、分析を生徒自らが行うことを通して、ネット上のいじめ、出会い系サイト、長時間のネット依存などの問題点に気づくことができる。さらにガイドライン作成、広報を行うことにより生徒、保護者へのいじめ防止、ネットトラブル防止の啓発につながり、自らの生活を見直し、より良い生活を送るために考える機会を持つことができる。</p> <p>2 一学期の取組成果</p> <p>(1) 生徒の意識や行動</p> <p>生徒会は、専門家の助言を受けながらアンケート作成、調査、分析を行うことを通して、ネットトラブル、ネット上のいじめの実態に気づき、取組に一層意欲を高めることができた。PTA総会でも発表し、保護者への啓発も行うことができた。</p> <p>夏季休業中には、本校生徒会の呼びかけにより、姫路市内4校の生徒会が合同で姫路スマホサミットを開催し、アンケート結果に基づいて現状を話し合った。また、本校オープン・ハイスクールでは、参加中学生に対して、利用上の注意をまとめた「スマホ3カ条」のカードを配布し、啓発活動を行う予定である。</p> <p>(2) 教職員の意識や行動</p> <p>生徒会活動、研修会を通して、問題の重要性に改めて気づくことができた。</p>

※ 取組として該当するものに○をつけてください(複数回答可)。			
(ア) <u>未然防止のための取組</u>	(イ) 早期発見・早期対応の在り方	(ウ) 教育相談体制の充実	
(エ) 生徒指導体制	(オ) 校内研修	(カ) PDCA サイクル	(キ) <u>児童生徒主体の取組</u>
(ク) <u>ネットいじめ対策</u>	(ケ) <u>保護者・地域社会の取組強化</u>	(コ) その他 ()	



姫路スマホサミット開催決定！

兵庫県立姫路飾西高等学校生徒会

平成26年8月9日(土)16:00

兵庫県立大学 環境人間学部 竹内研究室 (E203)

ミニ講座のお知らせ 8月9日(土)会場:F102 13:20~14:00

環境人間学部オープンキャンパス2014 人間形成コース

ミニ講義「ケータイ・スマホから見る教育課題」 竹内和雄 先生

今やスマホは高校生にとって必須アイテム！ でもちょっと困ることも…。

姫路飾西高校生徒会では、中播磨地域の高等学校校様の協力で、この夏、スマホのアンケートを実施しました。そのアンケート結果をもとに、高校生による高校生のためのスマホ宣言を考えたいと思っています。



で、夏休み！

兵庫県立大学環境人間学部のオープンキャンパスの日に環境人間学部の竹内先生の研究室にお邪魔して、「姫路スマホサミット」を開催することになりました。

環境人間学部の竹内先生といえば、若者のスマホ研究の第一人者ですが、とても気さくな先生です。大学の研究室探検もかねて、ぜひ参加しませんか。この日は、

お茶菓子の用意の関係で 各校2名までをお願いします！

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	鹿児島県	学校名	鹿児島県立末吉高等学校	(匿名可)
学校種別等	・設置者の別 (国立・ <input checked="" type="checkbox"/> 公立・私立) ・児童生徒数 (173 人) ・学級数 (6 学級) ・教職員数 (37 人)			

取組の概要	<p style="text-align: center;">問題</p> <p>いじめに関する調査等において、SNSによるネット上でのトラブル、いわゆる「ネットいじめ」が特に多かった。</p> <p style="text-align: center;">独自調査</p> <p>契約者である保護者が、子どもの携帯電話の利用状況等を、どの程度まで認知し関与しているかについて独自に調査した。</p> <p style="text-align: center;">調査結果</p> <p>全生徒の7割以上の家庭で「家庭内ルール」を定めておらず、かつ、フィルタリングが未設定であることが明らかになった。また、多くの生徒がネット上のトラブルが起きた場合、保護者に相談していない(できずいた)ことも判明した。</p> <p style="text-align: center;">対応策</p> <p>1 保護者に対して</p> <p>PTA総会で独自に実施した調査をもとに、傾向とその対応策を紹介する。その後、地区ごとに分かれ協議に入る。</p> <p>(1) 子どもの利用に関する保護者の悩み (2) 家庭内で実践して成功したルール (3) 家庭内で実践したが、うまくいかなかったルール</p> <p>2 生徒に対して</p> <p>(1) PTA総会における保護者との協議内容を伝え、各クラスで話し合う ア 現在抱えている悩み イ 今後の課題や問題点とその対策</p> <p>(2) クラスの代議員と生徒会が、「いじめ防止プロジェクトチーム」として協議を行い、「生徒(グループ)間ルール」が策定された。</p> <p>(3) 生徒会が全校生徒に対し、「生徒(グループ)間ルール」策定に至った経緯を説明し理解を求めた。また、保護者には文書でその活動と呼び掛けた。</p>
効果・成果	<p>1 効果</p> <p>(1) 各家庭では、現状に即した「家庭内ルール」の設定及び整備が行われ、生徒、保護者、学校の三者連携を図ることができた。</p> <p>(2) 「家庭内ルール」について、子どもは親に相談しやすくなり、親も携帯電話に関する課題に対し、これまで以上に関心を持つようになった。</p> <p>(3) 「生徒(グループ)間ルール」については、送り手と受け手が良好な人間関係を築き、これまで以上に心が通じ合い、相手を受け入れられるようになった。</p> <p>2 成果</p> <p>(1) 友人・親子関係において、より強固な信頼関係が築かれた。さらに、それぞれを「家族」として捉え、より絆を深めることにもつながった。</p> <p>(2) 子どもたちに対する心の居場所が確保されるだけでなく、困難に打ち勝つ力であるレジリエンスの向上が促進される。</p> <p>先行研究などからも、子どものレジリエンスの向上は、家族や家族の居住する地域などのコミュニティのレジリエンスと深い関連があるとされている。支援者たる周囲の存在こそいじめの未然防止につながり、ひいては、「いじめをしない、させない」というヒドゥン・カリキュラムが形成されるものと考えている。</p>

※ 取組として該当するものに○をつけてください(複数回答可)。				
(ア) 未然防止のための取組	(イ) 早期発見・早期対応の在り方	(ウ) 教育相談体制の充実		
(エ) 生徒指導体制	(オ) 校内研修	(カ) PDCA サイクル	<input checked="" type="checkbox"/> (キ) 児童生徒主体の取組	
(ク) ネットいじめ対策	<input checked="" type="checkbox"/> (ケ) 保護者・地域社会の取組強化	(コ) その他 ()		

いじめの問題に対する取組内容

1 PTA総会で保護者から出された子どもに対する意見（一部抜粋）

- (1) (子どもの) 携帯電話の利用に関する(保護者の) 悩み
 - ・ 親が携帯電話の機能に対応しきれず、進化にもついていけない。
 - ・ 子どもが何をしているのか分からず不安。親子けんかの原因にもなっている。
- (2) 家庭内で実践し成功したルール
 - ・ 食事中や会話中の使用禁止。ロックを禁止。
 - ・ 通話を止めるタイミングが難しいときは「親のせい」にして止めさせる。
- (3) 家庭内で実践したが、うまくいかなかったルール
 - ・ 携帯電話を一時預かったところ、全然口を聞かなくなった。

2 生徒から出された意見とその対策（一部抜粋）

- (1) 「ネット依存」傾向への対応

(意見) スマホ(携帯電話)が近くに無いと不安になるため、無意識のうちにさわっている。

(対策案) ネットに依存しないための強い意志を持つ。
- (2) SNSの利用とネット上の相手への感覚・距離感

(意見) ネット上では感情表現がうまく伝わりにくいため、安易に相手を傷つけるなどのトラブルが起きてしまう。

(対策案) 相手(受け手)の事を思いやる気持ちを持つ。
- (3) SNSを終わらせるタイミングの難しさ

(意見) 些細なやり取りがいつまでも続き、気が付けば夜中まで利用することがある。

(対策案) グループ内でルールを作り、アフター10運動を守る。
- (4) 学習時間等への影響

(意見) 「つながり」を重視するあまり、利用時間が増え、成績にも影響を及ぼす。

(対策案) 利用時間を設定するなど、日常生活にメリハリをつける。

3 各クラスからの対応策をもとに「いじめ防止プロジェクトチーム」で協議され、策定された「生徒(グループ)間ルール」

- ㊟ スマートフォンに依存しません
- ㊥ SNSで悪口を書きません
- ㊤ 夜10時以降は使用しません
- ㊤ 使用は2時間までとします



クラスで話し合われた対応策をヒントにルールを策定。学校名(地名)である「末吉」の頭文字をとり、生徒、保護者に親しみやすく、覚えやすいようにと、子どもたちが考案した。

4 「生徒(グループ)間ルール」をもとに「家庭内ルール」の策定

「生徒(グループ)間ルール」をもとに各家庭で少なくとも3つの「家庭内ルール」を設定してもらい、自宅で最も見えるところへ掲示するよう呼び掛けた。合わせて、各家庭でどのような「家庭内ルール」を設定したのか、提出を求めるなどした。

いじめの問題に対する取組事例

都道府県・指定都市名	富山県	学校名	龍谷富山高等学校 (匿名も可)
学校情報等	・設置者の別 (国立 ・ 公立 ・ 私立) ・児童生徒数 (860人) ・学級数 (27学級) ・教職員数 (85人)		

取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から基本方針の検討を行い、4月の全職員会議で「いじめ防止基本方針」の共通理解を図り、取り組みを開始する。 ・年度初めのホームルームにおいて、担任より「いじめのない学級」「いじめを許さない学級」作りを提唱し、生徒と共に話し合う。 ・年度初めの全校集会において、生徒指導部長が「いじめ」の防止を訴える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「いじめのない学校、いじめを見逃さない・許さない校風作り、アンケート実施の説明、いじめの被害・悩みがあった場合の相談場所の説明等」 </div> ・4月の全校集会において、生徒会新執行部が「いじめのない学校作り」を呼びかける。 ・いじめ防止のポスターを校内に掲示する。(スローガン・いじめをなくす宣言文は、昨年度から生徒玄関に掲示してある) ・5月の全校集会において、副校長が「いじめ防止対策推進法」について具体的に説明を行う。 ・4月下旬、8月下旬に全校一斉、面談週間を実施。 ・いじめ調査(本校では学園生活調査)を年間4回実施。 ・各学期末において、いじめ防止対策委員会を開き、計画の見直し、取組の評価を行う。 ・本校の「いじめ防止基本方針」は、危機管理マニュアルファイルに綴じ、全職員が机上に置き、いかなる時でも確認や対応ができるようにしている。
-------	---

効果・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針を作成し、職員・生徒に具体的に説明したことにより、意識が高まった。 ・昨年度より、生徒会が中心となって「いじめの根絶」を訴え、スローガン・宣言文を掲示し始めてから、校内の雰囲気が変わってきた。 ・アンケート調査・個人面談の実施、教育相談室との連携等で、校内の風通しを良くすることにより、生徒は些細なことでも相談しやすくなり、安心して学校生活を送れるようになっている。 ・生徒から相談された場合、本人の安全を第一とした迅速な職員の対応が、生徒と職員の信頼関係を築いている。
-------	---



校内に掲示してあるポスター

※ 取組として該当するものに○をつけてください(複数回答可)。			
<input checked="" type="checkbox"/> (ア) 未然防止のための取組	<input checked="" type="checkbox"/> (イ) 早期発見・早期対応の在り方	<input checked="" type="checkbox"/> (ウ) 教育相談体制の充実	
<input checked="" type="checkbox"/> (エ) 生徒指導体制	<input type="checkbox"/> (オ) 校内研修	<input type="checkbox"/> (カ) PDCA サイクル	<input checked="" type="checkbox"/> (キ) 児童生徒主体の取組
<input checked="" type="checkbox"/> (ク) ネットいじめ対策	<input type="checkbox"/> (ケ) 保護者・地域社会の取組強化	<input type="checkbox"/> (コ) その他 ()	

富山県 龍谷富山高等学校

- 基本方針を策定し、年度始めに職員・生徒で共通理解を図ったことが意識を変えた。
- 今までの取組は、教師主導型であったが、生徒会執行部を中心とした取組を行うことにより、校内の雰囲気が変わってきた。
- 生徒会のスローガン・いじめをなくす宣言文を全校集会で発表し、生徒玄関前に掲示し、いじめの根絶を目指している。
- 年4回のアンケート調査、年2回の面談週間、相談しやすい環境作り、些細なことでも見逃さない教師の態度等により、「いじめは許されない」という雰囲気が出来てきている。

(スローガン)

- ① いじめによって被害者も加害者も苦しむ
- ② ぶんの学校に誇りを持つように
- ③ めざせいじめ0(ゼロ)

「いじめをなくす 宣言文」

- ・私たちの学校では、いじめがいかなる理由があっても許されない。
- ・私たちの学校では、いじめの被害者は絶対に守られる。
- ・私たちの学校では、いじめについてどの先生にも相談できる。

